良き企業市民として 社会との積極的なかかわりを展開する

創立90周年記念事業として「ふれあい感謝まつり」やクラシックコンサートなどのイベントを開催するとともに、 横河電機本社グラウンドや外構を整備し地域の皆様にも活用いただけるようにしました。

地域の方々に楽しいひとときを提供

(1)創立90周年を記念し「ふれあい感謝まつり」を開催

2005年10月3日、リニューアルされた横河電機本社 グラウンドにて「YOKOGAWA90周年 ふれあい感謝まつ り」を開催しました。創立90周年という節目の年でもあり、 YOKOGAWAの拠点がある各国や日本各地の料理が模擬店 に並び、中国雑技団の演技やダンスショーなどのイベントも 行われるなど、国際色豊かなものとなりました。

当日は、1万3,000人にのぼる方々が来場し、どの店に も行列ができて大盛況となりました。グラウンド内ではヨー ヨー釣りや射的などが楽しめ、遊具コーナーもあり、子ども たちの人気を集めました。ステージ周辺にはイベントを楽し む人垣ができ、盛況のなかで幕を閉じました。

(2)「ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団メンバーによる 室内楽演奏会」を開催

創立90周年記念行事の一環として、武蔵野市民文化 会館で2005年10月10日、「ウィーン・フィルハーモニー 管弦楽団メンバーによる室内楽演奏会」が行われました。 YOKOGAWA社員約1.000人に加え、地元武蔵野市民約 200人をコンサートに招待しました。

当日は約2時間の間、弦楽四重奏や管楽器を加えた8人編

成での演奏が行われ、終了時には会場内に「ブラボー!」の 掛け声や大きな拍手が沸き起こりました。

また10月17日には、サントリーホールでお客様向けの 「ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団スペシャルコンサー ト」を開催。約2,000人の方が来場し、素晴らしい演奏に 満足された様子でした。経済界を中心に著名な方々も数多 く来場され、創立90周年を記念するにふさわしい華やかな イベントとなりました。

「YOKOGAWA技術未来展」を開催

創立90周年記念行事の締めくくりとして2005年10 月26日から29日まで、センチュリーハイアット東京で 「YOKOGAWA技術未来展」を開催。連日多くの来場者で にぎわいました。

展示会場を「The Origin」、「The Solution」、「The Future」 の3つのゾーンに区切り、創立当初から現在に至るまでの 製品開発の歴史、現在の事業、将来の技術を紹介するとと もに、グローバルシンポジウムや特別セミナーも行いまし た。社員やその家族、OB、関連会社、代理店、学生向け の見学日も設置。7.000人を超える来場者にYOKOGAWA の技術力を体感し、知つていただく4日間となりました。



OKOGAWA90周年ふれあい感謝まつり



YOKOGAWA技術未来展

横河電機本社グラウンドを人工芝化し地域に開放

創立90周年事業の一環として進めていた横河電機本社 グラウンドや外構の整備が完了し、2005年9月19日に竣 工式を開催しました。地域への配慮から、土ぼこりの飛散 対策としてグラウンドを人工芝とし、外周を緑の遊歩道に して、地域の方々に開放しました。グラウンド外周の駐車 スペースを廃止し歩道の一部にすることで遊歩道や信号待 ちのスペースを確保することができ、通勤時の混雑も緩和 され、安全、景観、利便性の向上を図ることができました。

そのほか、災害時に地域住民の避難場所として機能で きるようグラウンド内には、防災倉庫や地下水ポンプと浄 水器の設置など災害時の飲料水や生活用水を確保する対 策も施されました。また今後は、非常時のトイレ不足に対 応する計画もあります。

竣工式では社長の内田が「グラウンド周りの遊歩道や本 社外構は景観にも配慮したので、近隣の皆様の憩いの場 になれば幸いです」と挨拶。「地域に還元する企業として、 防災や景観に配慮していただいたことに感謝します」と来 賓代表者からも謝辞をいただきました。

また、「ふれあい感謝まつり」では、人工芝体験コーナー が設置され、ソフトできれいな人工芝を地域の方々にも体 感していただきました。

地域スポーツの振興に寄与

2005年10月15日には横河電機本社グラウンドで、武 蔵野市ラグビー協会主催の「武蔵野市ミニラグビーフェス ティバル」と、同好会ラグビ一部の公式戦が行われました。 このフェスティバルは、ラグビー部が新しくなったグラウ ンドで初の公式リーグ戦を行うのに合わせ、地域社会との スポーツを通じた交流と、グラウンドのお披露目を兼ねて 企画されたものです。

当日は武蔵野市、小金井市、昭島市のラグビースクー ルと地元小学校ラグビー部に所属する小学生を招待し、 指導員による練習と、ラグビースクール同士のゲームを 行い、子どもたちは、人工芝の上を元気に走り回りました。

12月18日、25日には、多摩地区を中心にした高校生 チームによるラグビーの交流会を開催しました。交流会に は、9チームが参加。ふだんの活動では経験できない人工 芝での練習とクラブ間の交流ができ、参加者の皆さんに は良い経験となりました。

また、横河パイオニックスでは、少年野球、少年サッカー、 水泳、テニスといったさまざまなスポーツ事業を通じ、地 域に密着した活動を展開しています。

グラウンドの人工芝化をきっかけに、これまで以上に積 極的なスポーツ振興活動に取り組んでいきます。



人工芝化された横河電機本社グラウンド



武蔵野市ミニラグビーフェスティバル

良き企業市民として 社会との積極的なかかわりを展開する

YOKOGAWAは地域市民としてまた地球市民として、地域の環境保全活動や緑化推進活動、 次世代の育成、災害復興、また学術文化活動をサポートしています。

各拠点で地域の清掃活動に参加

横河電機本社のある武蔵野市では毎年5月30日を「ごみ ゼロデー」として、その直後の日曜日に吉祥寺、三鷹、武 蔵境駅周辺を一斉に清掃しています。YOKOGAWAは、「地 域貢献」、「良き企業市民としての社会との共生」、さらに は「通勤時お世話になる道路の環境保全」という観点から、 毎年この活動に協力しています。2005年は6月5日に行 われ、YOKOGAWA社員とOB、その家族が参加しました。 参加メンバーは、三鷹駅北口から近接する文化会館通りへ のルートで、ごみやタバコの吸殻、空き缶などを拾いました。

また、2005年7月9日から三鷹駅北口周辺が路上禁煙 地区に指定され、道路には「路上禁煙」「ポイ捨て禁止」の ステッカーが貼られ、喫煙場所として指定されたマナーポ イントにはモニュメント型の灰皿が設置されました。武蔵 野市が行った7月6日から7月15日までの周知キャンペー ンで、YOKOGAWAはチラシの配布などにも協力しまし た。また11月に行われた同市の喫煙マナーキャンペーン では清掃にも参加しました。武蔵野市の調査によると、歩 行喫煙者は指定前と比べて79%、吸殻の道路散乱状況は、 63%減少。喫煙指定エリアでの吸殻回収本数は、3カ月で 15,000本増加し、喫煙マナーが徹底されてきていること が分かりました。

本社周辺だけでなく、YMG甲府、小峰、青梅の各工場 でも周辺で清掃活動を行いました。またYMG駒ケ根工場 では清掃活動に加え、天竜川水系での環境ピクニックに

参加、横河電子機器では不法投棄防止キャンペーンに参 加するなど、自主的な活動を展開しています。このように YOKOGAWAでは地域の環境整備に積極的に参加していま す。

地域の緑化推進を支援

(1)「みちまちみどり」への支援

武蔵野市の緑被率*30%を目指して活動する市民団体が 発行する、「むさしの緑の情報誌 みちまちみどり」の発行 費用支援を行い、緑化推進活動へのバックアップも行って います。この情報誌では、市民が緑に触れられる場所の紹 介、木々の効用、市内の農産物直売所の紹介など、市民が 緑や自然を身近に感じられ、緑の大切さに共感してもらえ るような記事を毎回掲載しています。発行の度に多くの反 響が発行者に寄せられています。

(2)森林保護への支援

「高尾の森づくりの会」のプロジェクトは、林野庁が進め る「市民参加の森づくり」構想に基づき(社)日本山岳会自然 保護委員会が母体になって進める森づくりのボランティア 活動です。横河電機は同会の活動費も支援し、森林保護へ の協力を行いました。

※緑被率:ある地域全体の面積における、緑でおおわれた土地の割合



「ごみゼロデー」での活動の様子



次世代の人材育成に寄与

(1)東京都立墨田工業高校の授業を支援

横河電機通信・測定器事業部と横河メータ&インスツル メンツは、2006年1月13日と20日に、東京都立墨田工 業高校で行われた燃料電池バイクの電気特性を実測する授 業に、計測器の貸し出しと技術者の派遣を行いました。同 校自動車科の佐藤昌史先生や生徒は、今回の実測で、自作 した燃料電池バイクの特性を初めて正確に知ることができ、 またYOKOGAWAとしても、燃料電池を使った車両が持つ 課題を測定によって実感することができました。この自作 バイクは燃料電池を用いた認証車両としては国内第1号で、 公道を走るためのナンバープレートも取得。多くの企業か らの支援もあり、車体にはYOKOGAWAをはじめ、協力し た企業のステッカーが貼られています。この燃料電池バイ クは、東京ビッグサイトで1月25日から27日までに開催さ れた「第2回 国際 水素・燃料電池展」で展示されました。

(2)科学技術研究コンテストに引き続き協賛

科学技術の未来を担う高校生、高専生の育成のために行 われているJSEC(ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・ チャレンジ)に2005年度も引き続き協賛しました。

(3)蘇天基金研修生の受け入れ

「蘇天記念・横河儀器儀表人材発展基金」から派遣さ れた16人の研修生が中国から横河電機本社に来社し、 2005年9月8日から16日まで横河電機の人事制度や品質 保証、環境管理活動などに関する研修が行われました。こ の基金は、1991年に横河電機の会長だった故横河正三が、 親交の深かった元中国機械工業局長の蘇天氏の逝去にあ たり、同氏の多大な功績を記念し、中国の計測、制御、情 報の分野に従事する人材を育成することを目的として、50 万ドルを拠出(その後50万ドルを追加)して設立したもの。 設立以来122人の研修生を受け入れ、多くの方々が現在 中国計測器産業のリーダーとして活躍しています。

輸出管理制度の現状を紹介

核やミサイル開発など安全保障輸出管理にかかわる社会 環境は世界的にますます厳しいものになってきています。 日本政府は国内企業に対し、自主管理による輸出管理法 令遵守を求める一方、自助努力のみでは限界があること から、特にアジア諸国の輸出管理制度の整備促進を目的と して、各国政府係官を招いて研修やセミナーを開催するな どの啓蒙活動を行っています。

横河電機輸出管理室では、この活動への協力の一環と して2005年11月17日にカンボジア、ミャンマーなどで輸 出管理を担当する5人の係官への研修を行いました。日本 企業の輸出管理の実情を視察して参考にしてもらおうとい うもので、YOKOGAWAが海外拠点も含めて行っている輸 出管理の状況を紹介しました。受講生からは大変よく理解 できたとの感想をいただき、今後、参加各国の輸出管理体 制向上につながるものと期待されます。



東京都立墨田工業高校での実測の様子

2005年度の災害支援・文化的支援

・福岡県西方沖地震被災者支援	2005年 5月
・ハリケーン「カトリーナ」の被災者支援	2005年 9月
・パキスタン北部大地震被災者支援	2005年10月
· 台風14号災害被災者支援	2005年10月
・(財)中近東文化センターの支援	2005年12月
・武蔵野桜まつり協賛	2006年 2月

お客様にとって安心で満足のいく 「世界同一品質」を目指す

ショールーム、デモルームをリニューアル。また海外の顧客へのノウハウや技術の提供にも力を入れています。

「品質第一主義」により世界同一品質を目指す

「YOKOGAWAは高品質な製品とソリューションを世界 同一品質でお客様に提供する」これは、長年にわたり培っ てきたYOKOGAWAのブランドイメージであり、それが世 界のお客様に認知されてきています。

このブランドイメージを支えるのは、90年以上も守り続 けてきた創業の精神である「品質第一主義」です。

[品質が全てに優先する]、それにより生み出される高い 品質がYOKOGAWAの最大の差別化要因となっています。

YOKOGAWAの品質マネジメントの基本的な考え方 は、QA(Quality Assurance: 品質保証)、QI(Quality Improvement:品質改善)、Qm(Quality mind:品質第一 の心)で構成しています。この3つの要素がすべてかみ合う ことで、初めてお客様の満足と永続的な信頼を得ることが できると考えています。特にYOKOGAWAの高い品質を守 るためには、Omが重要と考えています。品質第一の心を 持つことの重要性をグループ・グローバル全社員が認識し、 グループ共通のルールや考え方のもと品質を作り込み、こ れによりYOKOGAWAは「世界同一品質」の製品とソリュー ションをお客様へ提供していきます。また、お客様からお 寄せいただく情報には、各レスポンスセンターへ直接いた だく情報、営業・サービス業務を通じていただく情報等、 大変貴重な内容が数多く含まれています。これらの貴重な 情報を製品へフィードバックしていくことで、高い品質を作

り込んでいます。

YOKOGAWAではさまざまな業務のなかで、そこで働く グループ・グローバル全社員がお客様からお寄せいただく 情報を有効に活用していくとともに、「世界同一品質」を意 識し、創業の精神の一つである「品質第一」の心を持って、 日々の仕事に取り組んでいます。

ブランドの向上と迅速なレスポンス

(1)グローバルレスポンスセンター始動

横河電機本社新本館2階に「YOKOGAWA GLOBAL Response Center (横河グローバルレスポンスセンター)」 が完成(立川市から移転)し、2005年6月13日に始動しま した。

グローバルレスポンスセンターは、お客様のシステムや 機器に関するさまざまなトラブルやお問い合わせをお受け するサービスの総合窓口です。現場で発生する問題やトラ ブルを的確に切り分け、スペシャリストが迅速に対応しま す。同時に長年にわたり培ってきたリモート監視技術を核 にして、お客様の制御システムが健全に稼動できるように 24時間365日サポートしています。

また、統合生産制御システム [CENTUMシリーズ] の歴 代機種をセンター内に置き、実際に製品を操作しながら問 い合わせに対応することもでき、お客様により近い目線で 操作方法を伝えられるようになりました。





本社新本館2階に完成した「YOKOGAWA GLOBAL Response Center(横河グ ローバルレスポンスセンター)|

本センターの本社への移転、リニューアルを足がかりと して、サービスカンパニーに向けた構造改革をさらに進め ていきます。

(2)ショールーム、デモルームをリニューアル

2005年6月14日には、横河電機本社新本館2階に ショールームとデモルームをリニューアルオープンしまし た。ショールームでは、YOKOGAWAのビジネスコンセプ トETS (Enterprise Technology Solutions) を基調とした ソリューションを実感していただけるよう、製品やパネル を設置。また、次世代光通信分野技術を紹介する各種デバ イスなども展示するなど、見学する方々に実際に製品を見 て触れていただき、能動的に参加できる展示形式になるよ うに配慮しています。ショールーム奥には大型映像機器が 新設され、YOKOGAWAのケイパビリティをご理解いただ くための映像を視聴できるようにしました。一方、デモルー ムには、フィールド機器・IAシステムと半導体テスタの2つ のゾーンを用意し、「CENTUMシリーズ」や「FPDドライバ テストシステムST6730」などの実機を設置しました。

リニューアルしたことで多くのお客様に見学していただく ことが可能となり、各事業部のプロモーション活動の支援 を行いやすくなりました。これによってYOKOGAWAブラン ドの向上を目指します。

海外の顧客へ人事制度・技術教育制度のノウハウを紹介

2005年10月19日、20日、タイのサイアムセメントの グループ会社の社員の方に、横河電機の人事制度や技術 教育制度についての研修を行いました。サイアムセメント のグループ会社2社では、自社でR&Dセンターを立ち上 げる計画があり、YOKOGAWA (Thailand), Ltd.を通して、 YOKOGAWAの状況を参考にしたいという依頼があり、実 現した研修です。研修初日は、本社で技術教育や研究開発 に対する取り組みなどについて説明を行い、2日目は甲府 工場の見学ツアーを行いました。説明や見学中には、質疑 応答が活発に行われ、YOKOGAWAの制度について非常 に興味を持たれた様子でした。

海外の顧客へのサポート

YOKOGAWAでは、海外におけるお客様とのかかわりも 多く、横河電機本社トレーニングセンターで計測・制御に 関する各種講座を開設し、多くのお客様に受講していだだ いています。

下記の図に示されるように、2005年度の海外から のお客様は、CENTUM関係の講座を中心にExapilot、 STARDOM、自動制御など各種講座に103人の方々をお 迎えしました。

今後とも、海外のお客様とのかかわりを深くもち、より多 くのお客様にご利用いただけるよう講座の整備を進めます。



リニューアルしたショールーム

2005年度の受講結果

講座内容	参加国	人数
CENTUM基礎 (含む、エンジニアリング/グラフィック)	中国/台湾/韓国	52
工業計測	台湾	4
CS3000エンジニアリング	中近東諸国	24
CENTUM CS概要	中近東諸国	13
STARDOM FCN/FCJ入門	韓国	2
Exapilot入門/応用	韓国	4
初歩から始める計測入門	韓国	1
自動制御	韓国	1
すぐに使える工業計測の基礎	韓国	1
アドバンス制御	韓国	1
		合計103

企業倫理を徹底し リスクマネジメントに努める

社員のCSR意識を高めるために、CSR月間を定め、専門家によるCSRに関する講演会を実施、 また大地震を想定した訓練やヘルメットの配布など危機管理への対応も実施しました。

企業行動規範に則り健全な職場を維持 CSR講演会を実施

2005年11月29日横河電機本社において、駿河台大学教授、 水尾順一氏による「CSR(Corporate Social Responsibility) と企業倫理」についての講演が行われました。この講演は、 11月1日から始まった「CSR月間」を締めくくる行事で、講 演内容は、「CSRとは何か」に始まり、根底となるコンプラ イアンス、戦略的CSR、YOKOGAWAらしいCSRとその効 果的な推進体制についてお話しいただきました。なかでも CSRへの取り組みが成功するためには、社員の理解と納得 を得ることが大切であると強調。終業時間後の開催にも関 わらず100人以上の社員が参加し、熱心に聴き入っていま した。

社員の安全確保 各事業所で防災活動を実施

YOKOGAWAでは年2回の大規模な防災訓練を実施して います。2005年度は、春の防災訓練(5月)、秋の総合防 災訓練(11月)のほか、防災用ヘルメットの配布(9月)、救 出・破壊訓練(3月)等の活動も行いました。

なかでも2005年9月には大地震に備え、防災用ヘルメッ トの配布が実施されました。発生確率が高いといわれる 首都直下地震、東海・東南海・南海地震、宮城沖地震の 影響が及ぶエリアにある拠点を優先し、社員および派遣ス

タッフのほか来客者も対象としました。その他の拠点も順 次配布していきます。

11月の総合防災訓練では、緊急避難場所である本社グ ラウンドにおいて、武蔵野消防署、武蔵野警察署の協力の もと、煙体験コーナ、非常食の試食コーナのほか、震度7 を体験できる起震車や特殊災害車などが置かれ、社員や 近隣の方が多数参加し、実体験をとおして防災意識を高め ることができました。

2006年3月の救出・破壊訓練では、横河電機本社にお いて取り壊し予定の建物を、訓練の場として武蔵野消防署 に提供し、横河電機自衛消防隊も本訓練に参加。当日は 消防隊員の指導の下、エンジンカッター、削岩機、ハンマー 等を実際に使用した訓練を実施しました。実際の救出活動 さながらに破壊訓練を体験することができ、救出時にお ける破壊の難しさや、重要性を感じることができました。

障害者雇用および労働安全衛生

2005年度においても、障害者雇用率をグループ12社 で算定し、法定雇用率1.8%を継続的に達成しています。 また、社員の安全と健康を確保するとともに、快適な職 場環境の形成を図ることを目的に、安全委員会と衛生委 員会を毎月開催しています。安全委員会では定期的に構 内を回り安全の確保に心掛けています。下記はこれまでの、 障害者雇用率のグラフおよび、労働災害発生件数です。





横河電機の労働災害発生件数一覧

年	2001	2002	2003	2004	2005
年間平均労働者数(人)	6,376	5,750	5,625	5,763	6,366
延実労働時間数(H)	12,691,373	11,263,598	11,179,692	11,381,745	11,813,914
休業4日以上(人)	2	2	1	1	1
休業1~3日(人)	2	1	3	2	2
小計休業者数(人)	4	3	4	3	3
不休 (人)	17	12	15	22	34
合計	21	15	19	25	37
延休業日数(日)	158	86	43	74	30
労働損失日数(日)	129.9	70.7	35.3	60.8	24.7
度数率(全国平均1.77)(人)	0.32	0.27	0.36	0.26	0.25
強度率(全国平均0.12)(日)	0.010	0.006	0.003	0.005	0.002

度数率 = 労働災害による死傷者数 ×1,000,000H 強度率 =

知財・技術・技能を育て継承する 部門間・世代間のコミュニケーションともの作り

生産工程の自動化、生産拠点のグローバル化が進み、また雇用形態も変化していくなか、 YOKOGAWAの培ってきた技術を守り、発展させていく取り組みが行われています。

特許・商標の保護に向けて初の女性弁理士誕生

理系の弁護士とも言われる難関資格である弁理士試験 に、横河電機技術開発本部知的財産・国際標準化セン ターの菊谷信子が合格し、2005年12月に登録を経て、 YOKOGAWAに在籍する初の女性弁理士となりました。業 務をこなしながらプライベートタイムに勉強を続け、4回 目の挑戦で見事難関を突破。出願業務をこなしながら経 験を積んで、特許権侵害訴訟など資格を活かした業務にも 携わっていきたいと抱負を語っています。

技術者認定制度がスタート、2,147人が合格

横河電機原価企画本部設計共通化センターでは、製品 設計にかかわる技術者の認定制度をスタートさせました。 グループの生産拠点の統合が進み、大きなコストメリット を生み出す一方、製造一技術部門間の情報共有・交換の 機会が減るという弊害もあり、技術者には、分かりやすい 製造基準、生産しやすい設計、生産現場の状況把握を通 じたムダの排除、円滑な生産への配慮が必要との認識が 高まっていました。こうした状況を背景に、(1)製品事業部 で製品の設計に携わる技術者、(2)品質保証部署メンバー、 (3)生産技術部署や製造部署でその組織の長が指名した者 を対象に、設計に関する各種ルールや生産に関わる基本 事項等を内容とした技術者認定制度試験を実施し、2,147 人(合格率99%)が合格しました。合格者は2年ごとの更新

試験によって、最新の状況に対応していきます。この技術 者認定制度試験は今後も継続して実施していく予定です。

次世代へもの作りの技能と喜びを伝承

もの作りを担ってきた世代の定年退職により、培われた 技能が途絶えてしまうという危機感と、それらの次世代へ の継承を目的に、2004年4月に生産事業部内にもの作り センターが設立されました。もの作りセンターは小峰およ び甲府工場内にあり、国内の生産拠点を担当、さらに中国、 シンガポール、韓国にもあります。ミッションは、必要技能・ 技量の明確化、必要技能・技量の獲得とそのレベルの統一、 必要技能・技量の伝承の3つ。

もの作りには、切削、加工、圧着などさまざまな技能が あります。例えばはんだ付けは、ほとんどの作業を機械が 行いますが、はんだのぬれ・艶・量・外観を目で見て確認 し、問題があれば手作業で修正することもあります。この 場合、はんだ付けの基礎を習得していないと良否の判断や 修正ができません。かつては周りに教えてくれる先輩がい て、1対1で伝えることができましたが、現在は現場だけで は技能伝承が難しい状況にあります。

日本が世界をリードしてきたもの作りの技能を将来にわ たって守り続けると同時に、海外生産拠点の技能のレベル アップというグローバルな視点からも、もの作りセンター は重要な役割を担つています。



弁理士バッジを着け、登録証を手にする技術開発 本部知的財産・国際標準化センターの菊谷信子



生産事業部もの作りセンター(在甲府)

青柳 元

技能を伝えることはものを作る喜びを伝え ること。技能は品質に直結するもので、自 分の手によって品質の良い製品、最高の ものができたときの喜びは、他の何にもか えられません。私たちはそれを期待して仕 事をしています。



YMG甲府丁場基礎部品部

渡辺 秀明

もの作りの技術はシンプルで地道な作業 ですが、それがYOKOGAWAを支えてき ました。環境や部品の変化があっても、 基礎があれば応用が利くもの。10年、15 年たっても、もの作りの技能を身につける 基礎教育は必要です。

